

「地下水（自己水源）を保全・活用し、 開浄水場のポンプ交換を求める」署名のお願い

呼びかけ	開地区自治連合会長	海老 温信
	開ヶ丘自治会長	堀江ひさ代
	一里丘住宅地自治会長	金川 幸二
	第二次水道問題対策委員長	木村 正孝

地下水は、災害時の水源として重要です

先日の台風災害にあった兵庫県作用町では、地下水が住民の生活を守りました。地下水（市水道）は、隣接する住民にとっても、緊急時の飲料水として大きな役割を果たすものです。近年、市の要請により自主防災組織づくりが自治会・町内会で進められていますが、「水源の確保」こそ最重要なものです。

国は、地下水の保全・活用をすすめています

国土交通省では、水資源としての地下水は利用がしやすい、経費が安い、水質が良い、水温が一定などの特性をもち、地球水循環を構成する重要な要素として、地下水の保全・利用にむけて取り組みを進めています。

開浄水場（地下水）ポンプ交換実現に、ご協力をお願いします

宇治市は、小規模の槇島・開・神明・奥広野の地下水浄水場（すべて市水道）を廃止する計画を進めています。槇島は一昨年4月休止されました。

私達は、この3年間、宇治市の開浄水場廃止に反対し、裁判にも訴えています。このため宇治市は、開浄水場の給水を継続しながら、ポンプが停止するのを待っているようです。私達は、ポンプ交換費用の寄付を申し入れています。宇治市は拒否し続けています。（市は平成18年度に、開浄水場のポンプを購入しながら、交換しませんでした。）

宇治市の自己水源（地下水）を増やすために

京都府内の水道水は、約50%が地下水を利用しています。府南部では、井手町は100%、宇治田原町96%で、城陽市や京田辺市では80~70%、八幡市や久御山町では約50%~45%の自己水源（井戸水）を確保しています。

宇治市には6浄水場（宇治、西小倉、開、槇島、奥広野、神明）があり、35%確保が基本方針になっています。市の「総合計画」や「水道事業中・長期整備計画」でも緊急時の水源として地下水の重要性が位置づけられていますが、槇島浄水場が休止され、更に開浄水場も休止されれば30%を下回るようになります。

地下水の保全・活用を図り、開浄水場の存続、ポンプ交換を求める取り組みに、ご協力いただきますようお願い致します。

